

令和6年度
中津市観光アンケート調査報告書

令和7年3月
観光課

目 次

1	調査概要	P3
2	各項目のあらすじ	P6
3	本調査の結果分析	
	○属性分析	P8
	○問1分析	P11
	○問2分析	P12
	○問3分析	P15
	○問4分析	P16
	○問5分析	P18
	○問6分析	P19
	○問7分析	P21
	○問8分析	P22
	○問9分析	P23
	○問10分析	P24
	○問11分析	P25
	○問12分析	P26
4	本調査総括	P27

※注意

割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

1 調査概要

○調査の目的

観光客の属性や観光の実態等を把握し分析することで、より効果的な観光事業の実施を目指す。また、調査結果を地域へフィードバックし、地域一体となった観光まちづくりを目的としている。

○調査方法(二次元バーコード設置による調査)

観光マーケティング調査の一環として、令和3年度までGWシーズンや秋の紅葉シーズンに、聞き取りにてアンケート調査(2人1組×3班、各3時間)を行っていたが、時期、場所の偏りがあること、聞き取り人数が限られるという課題点があった。

そこで、令和4年度からは、下記の観光施設等に常設で二次元バーコード読み込み式のアンケートを設置する方法を採用している。また、令和6年度からは、新たに「中津耶馬溪観光協会」と「やすらぎの郷やまくに」に設置を行った。

○二次元バーコードの設置場所

令和4年度～

旧市内エリア	①中津駅
	②福澤記念館
	③中津市歴史博物館
	④道の駅なかつ
	⑤あげ処ぶんごや
三光エリア	⑥八面山荘
本耶馬溪エリア	⑦道の駅耶馬トピア
耶馬溪エリア	⑧耶馬溪サイクリングターミナル
	⑨深耶馬溪観光案内所
山国エリア	⑩道の駅やまくに

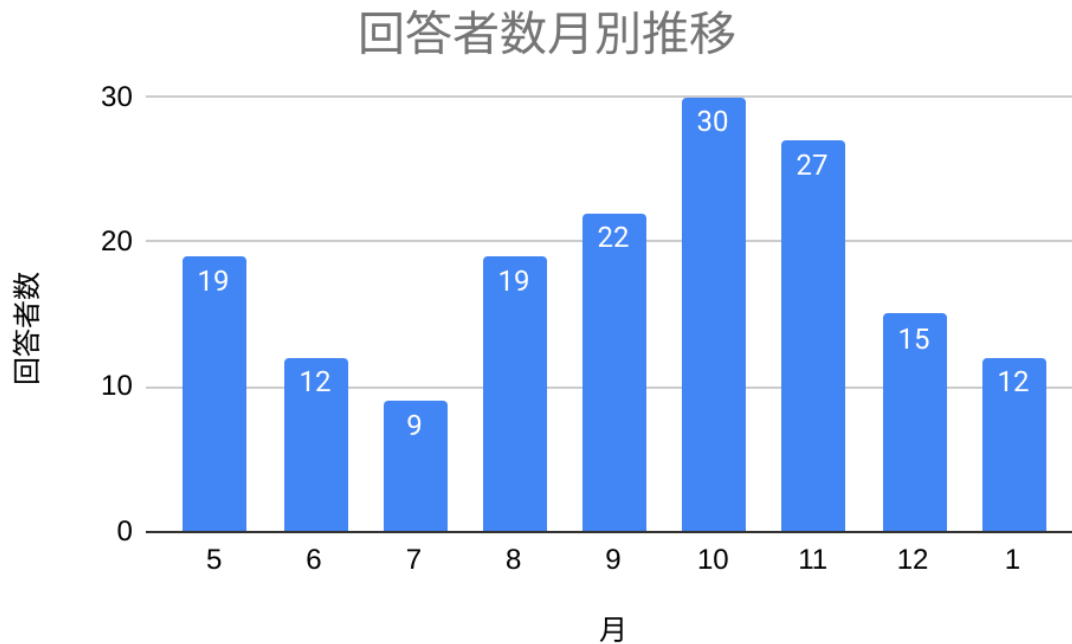
令和6年度新規設置

旧市内エリア	⑪中津耶馬溪観光協会
山国エリア	⑫やすらぎの郷やまくに

○調査期間及び収集サンプル数

令和6年5月1日～令和7年1月31日 収集サンプル数 合計165名

・回答数月別推移



※アンケート調査期間中の影響事由

■増加要因

- ・4月～6月 福岡・大分デスティネーションキャンペーン
- ・7月3日 新紙幣発行(福澤諭吉壱万円札肖像交代)
- ・7月26日～7月28日 中津祇園
- ・7月中旬～8月下旬 夏休み期間
- ・8月24日～8月25日 鶴市花傘鉾祭り
- ・10月18日～10月31日 三光コスモス園 開園期間(※例年より開園期間が短い。)
- ・10月26日～10月27日 からあげフェスティバル
- ・11月下旬～12月上旬 紅葉シーズン(※例年より紅葉開始時期が遅れている。)

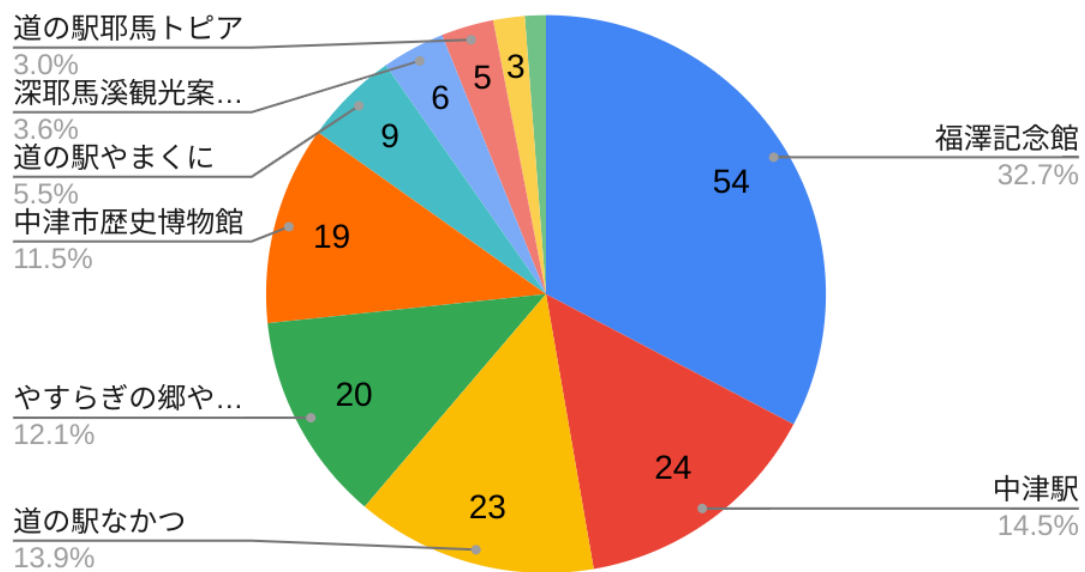
■減少要因

- ・7月、8月 記録的猛暑
- ・10月、11月 観光シーズンの週末に天候不良日が続く

○回答場所

回答場所	人数
福澤記念館	54
中津駅	24
道の駅なかつ	23
やすらぎの郷やまくに	20
中津市歴史博物館	19
道の駅やまくに	9
深耶馬溪観光案内所	6
道の駅耶馬トピア	5
耶馬溪サイクリングターミナル	3
中津耶馬溪観光協会	2
合計	165

人数



○質問事項

・調査日 ・居住地域 都道府県／市町村 ・性別／年齢

- 問1. このアンケートの二次元バーコード読み込み場所を教えてください。
- 問2. 今回の中津(耶馬溪を含む)旅行は何回目になりますか。(4択中1つ選択)
- 問3. 今回の旅はどれに該当しますか。(8択中1つ選択)／来訪人数
- 問4. 今回の旅はいつ計画しましたか。(5択中1つ選択)
- 問5. 今回の旅の情報源を教えてください。(11択中複数選択可)
- 問6. 今回の旅の目的を教えてください。(6択中複数回答可)
- 問7. 今回の旅はどれに該当しますか。(3択中1つ選択。記入あり)／日帰り・宿泊
- 問8. 今回の旅全体の予算額を教えてください。(金額記入)
- 問9. 今回の旅の交通手段を教えてください。(11択中複数選択)
- 問10. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます(した)か。(21択中複数選択)
- 問11. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。(自由記述)
- 問12. 再び、中津に旅行に来たいと思いますか？(5択中1つ選択)
- 問13. 中津市内の観光で困ったことはありますか。(自由記述)

2 各項目のあらすじ

(居住地)

九州・沖縄地方からの来訪者が全体の7割を占めた。市区町村別では、福岡市、大分市、北九州市が上位3位となっており、この三市が多い傾向は依然変わらない。

また、関東地方からの来訪者が九州・沖縄地方の次に多く、これに対し近年増加傾向だった近畿・中国地方は、合せて減少傾向となった。

(年齢)

昨年度に引き続き、50代以上のシニア層が増加傾向にある。30代、40代の割合はほぼ変わらない。その一方で10代、20代の割合は減少している。

(旅行回数)

リピーターの割合が多い。旅行回数が「初めて」と「4回以上」の都道府県別の順位を見ると、「初めて」は、大分県が福岡県を抜き1位となっており、また上位3位は九州となっている。「4回以上」は、昨年度同様に福岡県が多い。

(旅形態)

家族旅行の割合が合計で7割近く、直近3年での増加傾向が強い。一方で出張が微減となり、観光での来訪が増加していることがうかがえる。

年齢別に見ると、50代以上の家族旅行(夫婦)が多く、次いで及び30～40代の家族旅行(夫婦＋子ども)となった。

(旅の準備期間)

昨年度と同様に、1週間以内に計画する割合が最も多く、県内と隣県福岡県が多くを占めている。準備期間が長くなればなるほど遠方からの来訪人数が増える傾向にある。

(旅の情報源)

インターネットの情報が例年同様におおよそ3割を占めている。また、SNSも増加傾向となって

おり、インターネット媒体からの情報取得が多い。

また、以前来訪した際の経験や家族や友人・知人からの紹介のようにインターネットや雑誌などの媒体を利用しない対人での情報共有の割合もインターネットの情報の数値とほぼ近い。

（旅の決定要因）

昨年度に引き続き、グルメの割合が一番多いが、割合としては減少している。また歴史・文化を目的とした来訪者の割合が令和4年度以降、増加傾向にあり、新紙幣発行による福澤諭吉の肖像交代や「やばはく」をきっかけに、来訪者が増えたと考えられる。

（日帰り・宿泊）

市内宿泊者の割合は増加し、日帰り旅行の割合が減少となり、市外宿泊者も減少となった。また、日帰り旅行者の滞在時間についても、近年は長時間化の傾向がある。近年、通過型観光での来訪者の割合が増加傾向があったが、今回はそれに歯止めがかかった結果となった。

（予算額）

全体（宿泊+日帰り）の予算額については、増加した。この増加要因については、夕食費、宿泊費、及び体験料であるが、宿泊費については、全国的にもホテル等の宿泊費が上昇していることが一因と考えられる。

（交通手段）

昨年度に引き続き、自家用車・レンタカーの割合が増加傾向にあり、全体の6割以上を占めている。

一方で、電車（在来線）、新幹線、飛行機、フェリーの利用はいずれも微減傾向にある。

（目的地）

前年と比べ、中津市歴史博物館や福澤旧居・記念館の割合が増加している。

旅の決定要因で、歴史・文化を目的とした来訪者の割合が増加傾向にあることと関連して、これらの施設の来訪者が増えたと考えられる。

（グルメ）

心に残ったグルメは、からあげの割合がもっとも多い。今年度は、城下町エリアの来訪者が多かったこともあり、はもの割合も増えた。

（中津への再来訪）

中津へ再び来たいと思う割合は、「そう思う」、「まあ思う」の合計が9割以上となった。

3 調査結果の分析

■来訪者属性(居住地、性別、年齢)

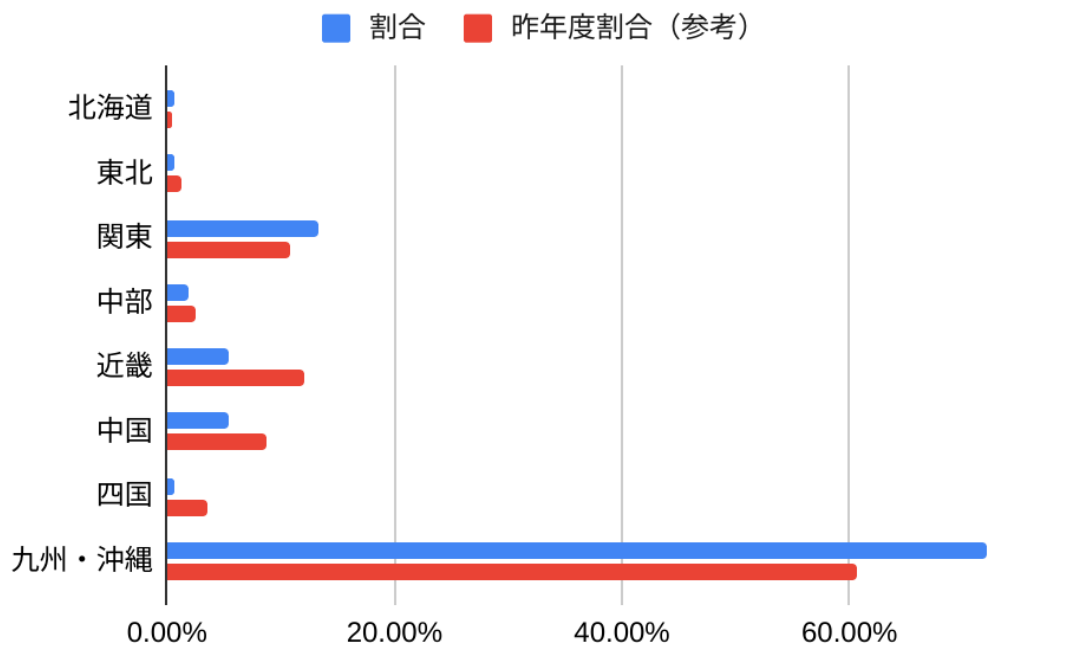
○居住地(記入方式)

居住地 都道府県： 市町村：

●地方区分別(8地方区分)

大区分	中区分	今年度人数	昨年度人数	割合	昨年度割合(参考)	増減
北海道	北海道	1	1	0.61%	0.40%	0.21%
本州	東北	1	3	0.61%	1.30%	-0.69%
	関東	22	25	13.33%	10.80%	2.53%
	中部	3	6	1.82%	2.60%	-0.78%
	近畿	9	28	5.45%	12.10%	-6.65%
	中国	9	20	5.45%	8.70%	-3.25%
四国	四国	1	8	0.61%	3.50%	-2.89%
九州・沖縄	九州・沖縄	119	140	72.12%	60.60%	11.52%
合計		165	231	100.00%	100.00%	

※一番割合が高い数値 赤色



●内訳(九州・沖縄)

県名	人数	割合	昨年度割合(参考)	増減
福岡県	64	53.78%	50.00%	3.78%
大分県	36	30.25%	34.30%	-4.05%
長崎県	7	5.88%	3.60%	2.28%
熊本県	5	4.20%	5.70%	-1.50%
佐賀県	4	3.36%	2.90%	0.46%
鹿児島県	2	1.68%	0.70%	0.98%
宮崎県	1	0.84%	1.40%	-0.56%
沖縄	0	0%	1.40%	-1%
合計	119	100.0%	100.00%	

※一番割合が高い数値 赤色

●自治体別上位

順位	都道府県名	市町村	人数
1	福岡県	福岡市	16
1	大分県	大分市	16
3	福岡県	北九州市	12
4	福岡県	豊前市	6
5	大分県	別府市	5

九州・沖縄地方からの来訪者が伸び(昨年度比11.52%増)全体の7割を占めた。市区町村別では、福岡市、大分市、北九州市が上位3位となっており、この三市が多い傾向は依然変わらない。

また、関東地方からの来訪者が微増(昨年度比2.53%増)し、九州・沖縄地方の次に多い結果となった。

相対的に、直近2年で増加傾向にあった近畿地方については減少(昨年度比6.65%減)した。中国地方も減少傾向(昨年度比3.25%減)となっている。近年増加傾向だった近畿・中国地方は、合せて9.9%の割合減少となった。

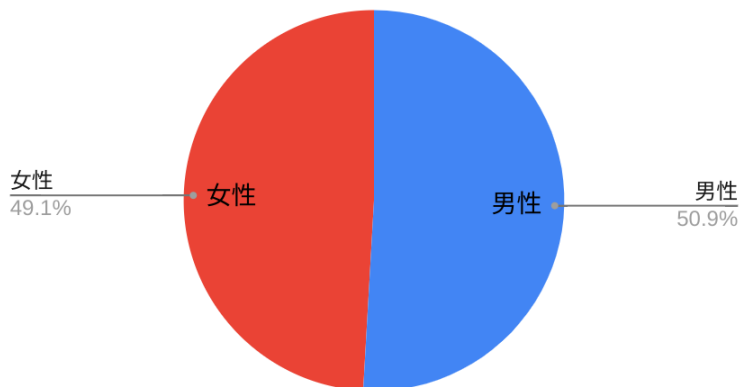
○ 性 別・年 齢

●性別

選択式

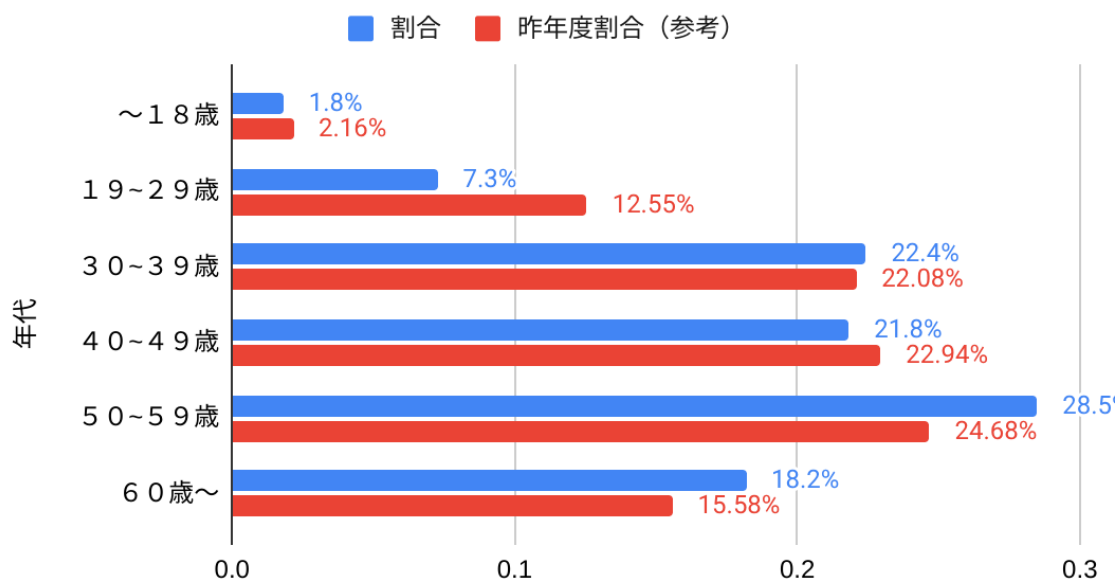
性別：□ 男性84名 □ 女性81名 合計165名

性別



●年代別

年代



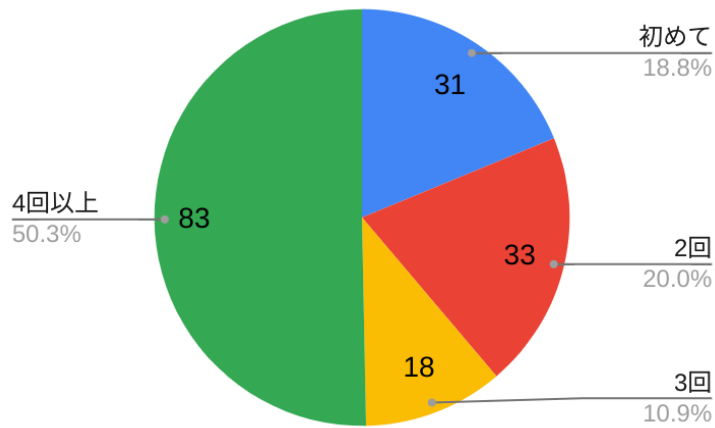
男女比は、ほぼ同数となった。

年代別にみると、50代が3.9%増、60代以上が2.4%増となり、昨年度に引き続き、シニア層が増加傾向にある。30代、40代の割合はほぼ変わらない。その一方で10代、20代の割合は減少している。

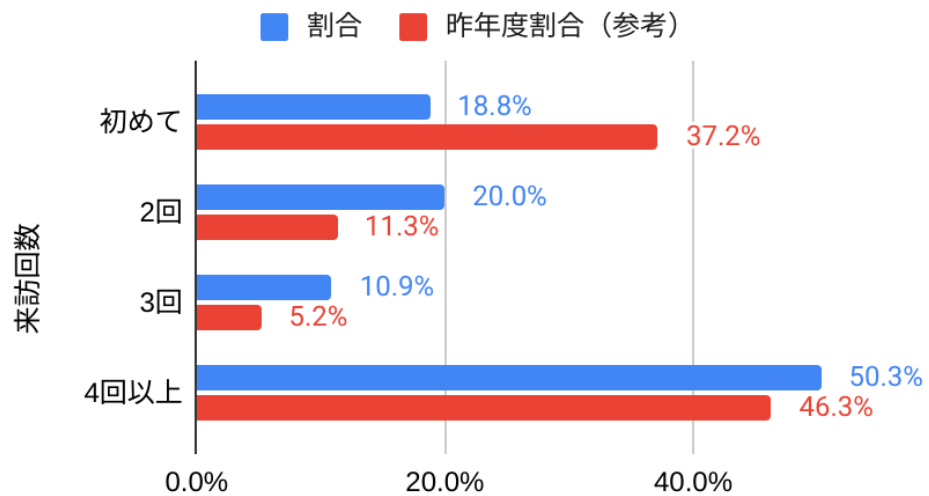
問1. 今回の中津(耶馬溪を含む)旅行は何回目になりますか。(1つに✓印)

☐ 初めて ☐ 2回 ☐ 3回 ☐ 4回以上

●旅行回数:初めて31名 2回33名 3回18名 ☐ 4回以上83名



旅行回数 (昨年度比)



●旅行回数(順位・都道府県)

初めて来る旅行者の割合が高い県

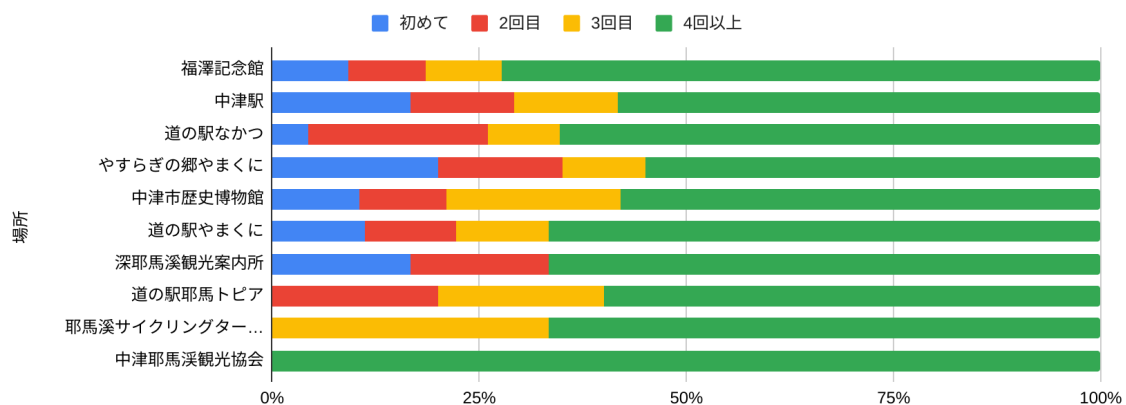
順位	都道府県	人数	前回順位
1	大分県	20	3↑
2	福岡県	16	1↓
3	佐賀県	8	上位3位外

4回以上のリピーターの割合が高い県

順位	都道府県	人数	前回順位
1	福岡県	48	1→
2	大分県	16	2→
3	神奈川県	4	上位3位外
3	千葉県	4	上位3位外
3	東京都	4	上位3位外

●旅行回数（調査場所別）

旅行回数（調査場所別）



昨年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、初めて中津の観光地を訪問するケースが多くなっていたのに対し、今年はまたリピーターの割合が多くなった。

また、調査場所別で見ても、全体としてリピーターの割合が多い。なお、今回やすらぎの郷やまくにを新規調査地点に加えたことも家族旅行の割合が増えたことに影響すると考えられる。

旅行回数が「初めて」と「4回以上」の都道府県別の順位を見ると、「初めて」は、大分県が福岡県を抜き1位となっており、また上位3位は九州となっている。

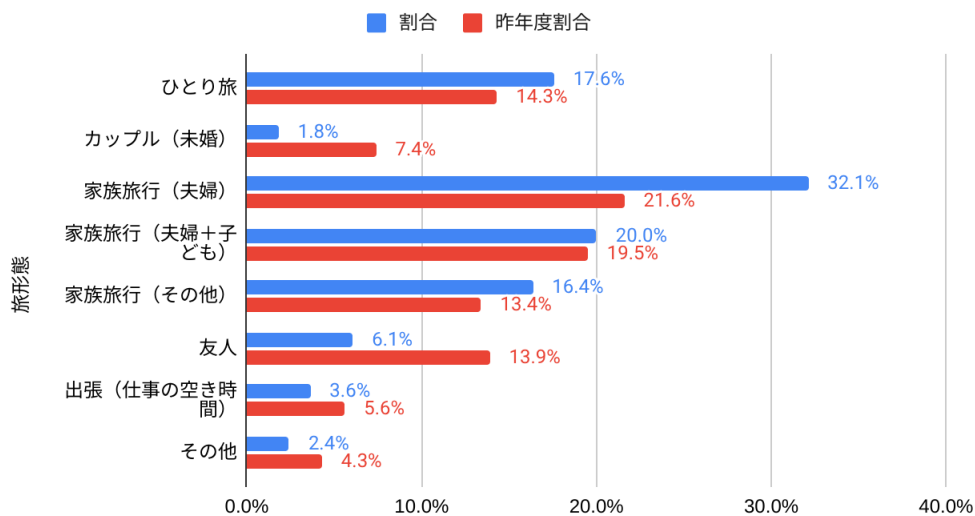
「4回以上」は、昨年度同様に福岡県が多い。また、関東圏からのリピーターが同率3位で3都県ランクインしている。

問2. 今回の旅はどれに該当しますか。（1つに✓印）

- ☐ひとり旅 ☐カップル(未婚) ☐家族旅行(夫婦) ☐家族旅行(夫婦+子ども)
☐家族旅行(その他) ☐友人 ☐出張(仕事の空き時間) ☐その他

●旅形態

旅形態

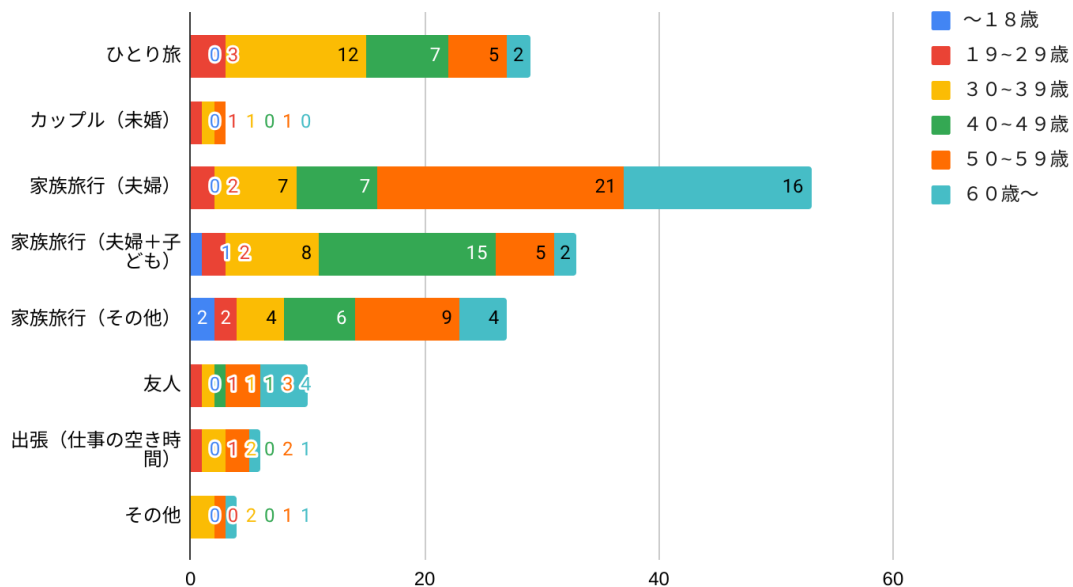


●年齢（構成別）

	～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	合計
ひとり旅	0.0%	1.8%	7.3%	4.2%	3.0%	1.2%	17.6%
カップル（未婚）	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	1.8%
家族旅行（夫婦）	0.0%	1.2%	4.2%	4.2%	12.7%	9.7%	32.1%
家族旅行（夫婦＋子ども）	0.6%	1.2%	4.8%	9.1%	3.0%	1.2%	20.0%
家族旅行（その他）	1.2%	1.2%	2.4%	3.6%	5.5%	2.4%	16.4%
友人	0.0%	0.6%	0.6%	0.6%	1.8%	2.4%	6.1%
出張（仕事の空き時間）	0.0%	0.6%	1.2%	0.0%	1.2%	0.6%	3.6%
その他	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.6%	0.6%	2.4%

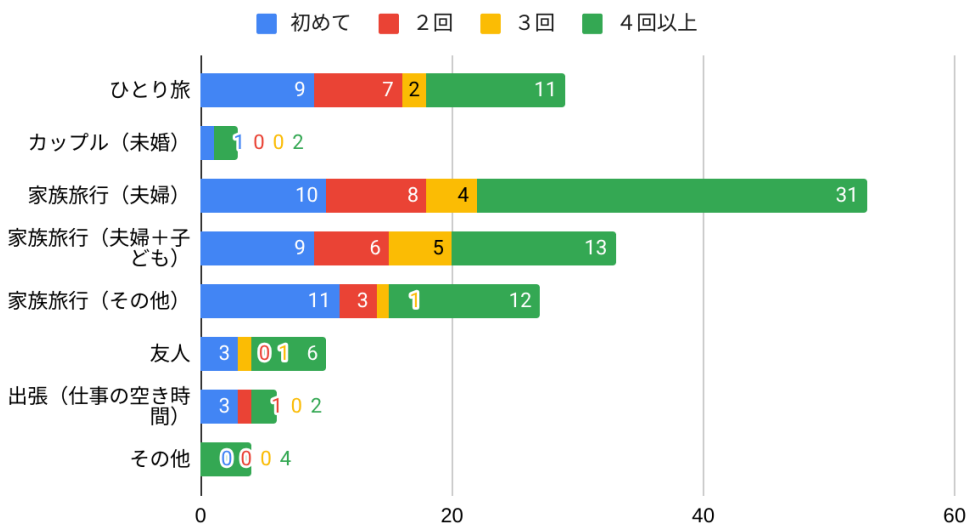
※一番割合が高い数値 赤色

年代別の旅形態



●旅形態（旅行回数別）

旅形態（旅行回数別）



家族旅行の割合が合計で68.5%（昨年度比14%増）と高く、令和4年度からだ19.2%増と、直近3年で増加傾向が強い。

一方で出張が3.6%（昨年度比2%減）となり、観光での来訪が増加していることがうかがえる。

年齢別に見ると、50代以上の家族旅行（夫婦）が多く22.4%、次いで及び30～40代の家族旅行（夫婦＋子ども）が13.9%、「家族旅行」という枠でみると、50代が合計12.7%と最も多い。

なお、今回やすらぎの郷やまくにを新規調査地点に加えたことも家族旅行の割合が増えたことに影響すると考えられる。

また、旅形態を旅行回数別に見てみると、どの形態もリピーターの割合が多い。

問3. 今回の旅はいつ計画しましたか。(1つに✓印)

- ☐ 1週間以内 ☐ 1週間～2週間前 ☐ 3週間～1ヶ月前 ☐ 1ヶ月～3ヶ月前
☐ 3ヶ月以上前

●旅の準備期間(全体・各項目上位都道府県)

項目	人数	割合	昨年度 人数	割合	1位	2位	3位
1週間以内	66	40%	88	38.10%	福岡県(35)	大分県(21)	千葉県(2)
1週間～2週間前	20	12%	38	16.50%	福岡県(9)	大分県(5)	大阪府(2)
3週間～1ヶ月前	24	15%	39	16.90%	福岡県(10)	神奈川県(3)	大分県(2)
1ヶ月～3カ月前	41	25%	50	21.60%	福岡県(10)	大分県(6)	東京都(4)
3カ月以上前	14	8%	16	6.90%	神奈川県(2)	大分県(2)	千葉県(2)
合計	165		231				

※一番割合が高い数値 赤色

令和5年度と同様に、1週間以内に計画する割合が最も多く、県内と隣県福岡県が多くを占めている。

都道府県別の来訪者数が一番多い福岡県が、1ヶ月～3カ月前までのランキングでも1位を占めている。準備期間が長くなればなるほど遠方からの来訪人数が増える傾向にある。

福岡県や大分県等の近隣エリアからも、旅の目的地として計画的に来訪する層が増えていると思われる。

問4. 今回の旅の情報源を教えてください。(複数回答可)

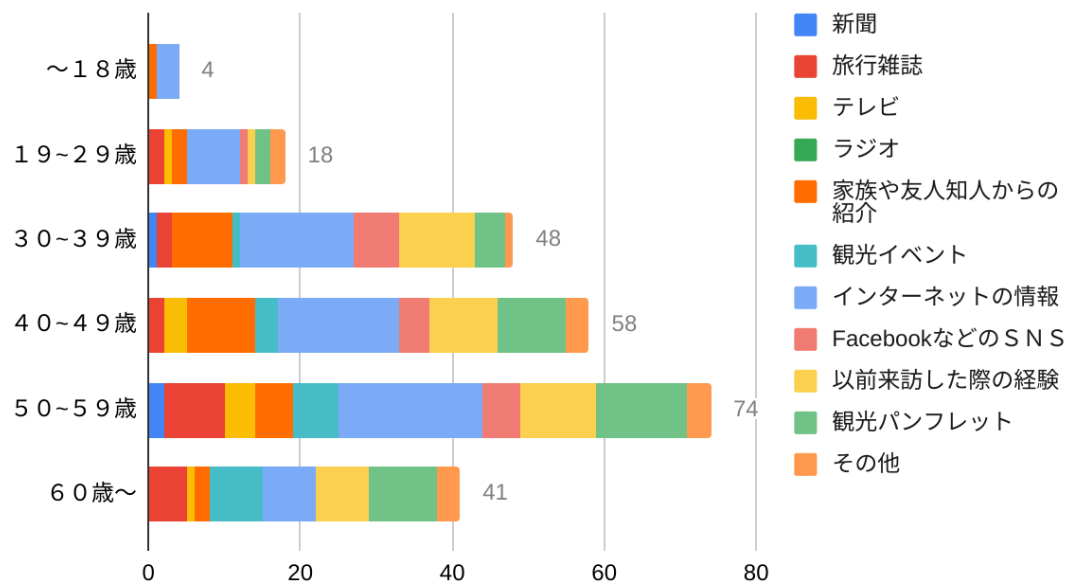
- ☐ 新聞 ☐ 旅行雑誌
☐ テレビ ☐ ラジオ
☐ 観光パンフレット ☐ 観光イベント
 (媒体名・イベント名:)
☐ インターネット情報(媒体名:)
☐ FacebookなどのSNS(媒体:)
☐ 家族や友人知人からの紹介
☐ 以前来訪した際の経験

●旅の情報源(具体例)※一番割合が高い数値 赤色

	人数	割合	昨年度割合 (参考)	具体例(抜粋)
新聞	3	1.2%	1.3%	大分合同新聞
旅行雑誌	19	7.8%	8.0%	じゃらん、続100名城
テレビ	9	3.7%	3.2%	TOS,旅サラダ
ラジオ	0	0.0%	0.3%	—
家族や友人 知人からの 紹介	27	11.1%	16.9%	—
観光イベン ト	17	7.0%	4.5%	やばはく、やばけい遊覧スタン プラリー
インターネッ トの情報	67	27.6%	30.3%	YouTube、検索エンジン、市の ホームページ、Googleマップ
Facebookな どのSNS	16	6.6%	3.2%	Instagram、Twitter(X)
以前来訪し た際の経験	37	15.2%	18.8%	—
観光パンフ レット	36	14.8%	9.6%	るるぶ、博物館のチラシ
その他	12	4.9%	4.1%	
合計	243			

●旅の情報源(年齢別)

旅の情報源（年齢別）



※横軸は回答数

インターネットの情報が例年同様におおよそ30%を占めている。また、SNSも昨年度より増加傾向（昨年度比3.4%増）となっており、ネット媒体からの情報取得が多い。

また、やばけい遊覧スタンプラリー等のイベントをきっかけとする層も7%（昨年度比2.5%増）となっている。るるぶ等の観光パンフレットも14.8%（昨年度比5.2%増）となっている。サービスエリア、観光施設等でのチラシ、パンフレットの設置及びイベント等での配布が効をなしている可能性がある。

一方で、以前来訪した際の経験や家族や友人・知人からの紹介のようにインターネットや雑誌などの媒体を利用しない対人での情報共有の割合が合計で26.3%（昨年度比9.4%減）となったが、インターネット情報の数値とほぼ近い。

新聞・ラジオ・テレビは例年同様に低い割合となった。

年齢別にみると、60歳以上を除いて、どの年齢層もインターネットの情報が一番多く、対して60歳以上だと、以前来訪した際の経験や、観光パンフレット等から情報を得る人も多い。

50歳以上の高齢層だと、旅行雑誌や観光パンフレット等の紙媒体を使用する割合が多く、若年層になるほど減っていく傾向にある。

問5. 今回の旅の決定要因を教えてください。(複数回答可)

- ☐ グルメ(具体例:) ☐ 自然等 (具体例:)
☐ 歴史・文化(具体例:) ☐ イベント(具体例:)
☐ 宿泊施設(具体例:) ☐ その他 (具体例:)

●旅の決定要因(具体例(一部))

	人数	割合	昨年度人数 (参考)	昨年度割合 (参考)	具体例(抜粋)
グルメ	75	27.9%	123	33.9%	からあげ、鰻など
自然等	58	21.6%	73	20.1%	耶馬溪関連、紅葉、温泉など
歴史・文化	72	26.8%	84	23.1%	中津城、福澤諭吉関連
イベント	26	9.7%	27	7.4%	航空祭、リアル宝探し、コスモスなど
宿泊施設	14	5.2%	22	6.1%	守実温泉、汽車ポッポ食堂別邸など
その他	24	8.9%	34	9.4%	帰省、サイクリングなど
合計	269		363		

※一番割合が高い数値 赤色

昨年度に引き続き、グルメの割合が一番多いが、割合としては減少(昨年度比6%減)している。

また歴史・文化を目的とした来訪者の割合がここ令和4年度以降、増加傾向にあり、今年度も26.8%と増加(昨年度比3.7%)している。不滅の福澤プロジェクトによる観光PRを続けた中、令和6年7月に新紙幣発行による福澤諭吉の肖像交代きっかけに、各種メディアやニュース等で中津市が取り上げられる機会も増え、来訪者が増えたと考えられる。

問6. 今回の旅はどれに該当しますか。(1つに✓印)

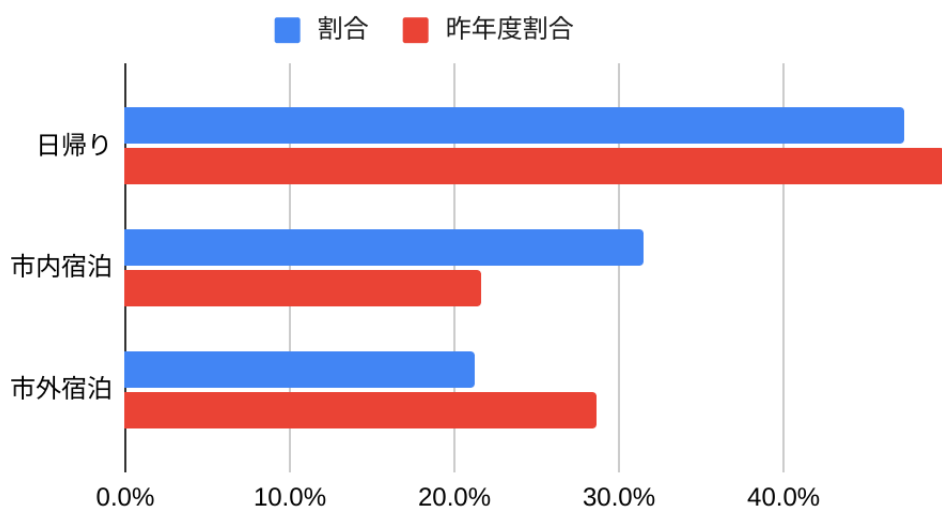
- ☐ 日帰り(滞在時間: 時間)
☐ 市内宿泊(ホテル名)(泊)
☐ 市外宿泊(都道府県: 市町村:)

●日帰り・宿泊

	人数	割合	昨年度人数 (参考)	昨年度割合 (参考)
日帰り	78	47.3%	115	49.8%
市内宿泊	52	31.5%	50	21.6%
市外宿泊	35	21.2%	66	28.6%
合計	165		231	

※一番割合が高い数値 赤色

日帰り・宿泊



●日帰り・滞在時間

	人数	割合	昨年度人数 (参考)	昨年度割合 (参考)
2時間未満	1	1.3%	4	3.50%
2時間～4時間 未満	11	14.1%	17	14.80%
4時間～6時間 未満	14	17.9%	16	13.90%
6時間以上	15	19.2%	18	15.70%

未記入	37	47.4%	60	52.20%
合計	78		115	

※未記入を除き一番割合が高い数値 赤色

●市内宿泊・泊数

	人数	割合	昨年度人数 (参考)	昨年度割合 (参考)
1泊	39	75.0%	32	64.0%
2泊	3	5.8%	6	12.0%
3泊	0	0.0%	1	2.0%
4泊以上	5	9.6%	8	16.0%
未記入	5	9.6%	3	6.0%
合計	52		50	

※一番割合が高い数値 赤色

●市外宿泊・宿泊地（複数回答有）

順位	宿泊地	人数	割合
1	大分県別府市	8	22.9%
1	大分県大分市	8	22.9%
2	福岡県吉富町	5	14.3%
3	福岡県北九州市	3	8.6%
4	大分県宇佐市	2	5.7%
5	福岡県荏田市	1	2.9%
5	宮崎県高千穂	1	2.9%
5	福岡県福岡市	1	2.9%
5	大分県由布院	1	2.9%
5	熊本県阿蘇市	1	2.9%
5	熊本県熊本市	1	2.9%
5	熊本県南阿蘇市	1	2.9%
5	福岡県(市町村未記入)	1	2.9%
—	未記入	1	2.9%
—	合計	35	

【参考】昨年度上位

順位	宿泊地		人数	割合
1	大分県	別府市	19	28.8%
2	大分県	大分市	8	12.1%
3	大分県	由布市	6	9.1%
4	大分県	国東市	5	7.6%
4	福岡県	北九州市	5	7.6%
6	大分県	宇佐市	3	4.5%

日帰り旅行の割合が減り(昨年度比2.5%減)となり、市外宿泊者も減少(昨年度比7.4%減)となった。

対して、市内宿泊者の割合は増加(昨年度比9.9%増)となった。

また、日帰り旅行者の滞在時間についても、近年は長時間化の傾向がある。今年度も6時間以上(昨年度比3.5%増)、4時間～6時間未満(昨年度比4%増)と、長時間化している。

近年、通過型観光での来訪者の割合が増加傾向が見られたが、今回はそれに歯止めがかかった結果となった。

市外宿泊者の宿泊地は、前年同様、別府市及び大分市が多く、県内に宿泊する旅行者が来訪する割合が多くなっている。

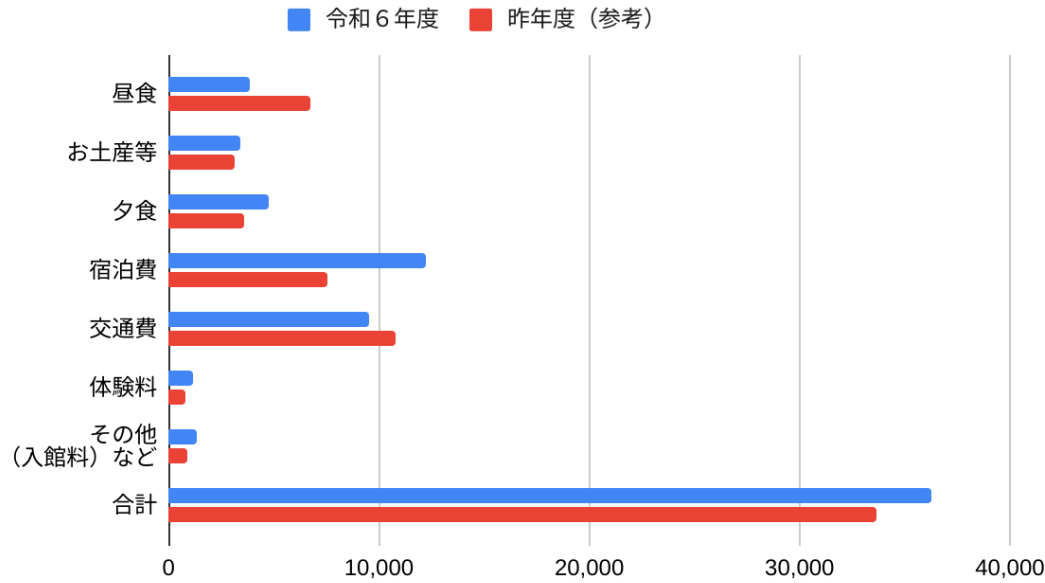
問7. 今回の旅全体の予算額を教えてください。(おひとり様あたり:平均額)

		昼食	お土産等	夕食	宿泊費	交通費	体験料	その他(入館料)など	合計
令和6年度	全体	3,830	3,368	4,737	12,266	9,500	1,176	1,362	36,238
	宿泊(市内)	3151	3536	5277	13134	7512	1600	1338	35,547
	宿泊(市外)	4577	8320	4958	7185	21865	30450	1190	78,546
	日帰り	2589	2621	2138	1769	3698	438	1247	14,502
昨年度	全体	6,773	3,157	3,633	7,562	10,817	830	884	33,657
	宿泊(市内)	17,744	5,163	8,239	10,077	18,668	2,534	1,170	63,595
	宿泊(市外)	6,407	4,202	4,886	19,096	20,018	798	1,600	57,007
	日帰り	2,457	1,776	1,071	383	2,688	147	386	8,907

全体(宿泊+日帰り)について、36,238円となり、前年と比べ2,581円増加した。この増加要因については、夕食費(昨年度1,104円増)、宿泊費(昨年度4,704円増)及び体験料(昨年度346円増)となっている。宿泊費については、新型コロナ収束以降、インバウンドの増加等で、全国的にもホテル等の宿泊費が上昇していることが一因と考えられる。一方、減少している項目の内、交通費については、昨年度と同様レンタカーや自家用車などでの来訪が増えているため、消費額が抑えられていることが考えられる。

また形態別にみると市内宿泊者の予算額が減少(昨年度28,048円減)となっている一方で、市外宿泊者の予算額は増加(昨年度14,951円増)となっている。同様に日帰りの予算額も増加(昨年度23,409円増)となった。

予算額（全体）



問8. 今回の旅の交通手段を教えてください。（複数回答可）

- ☐ 自家用車 ☐ レンタカー ☐ タクシー ☐ 電車(在来線) ☐ 新幹線 ☐ 路線バス ☐ 観光バス ☐ 飛行機 ☐ 自転車 ☐ 徒歩 ☐ その他()

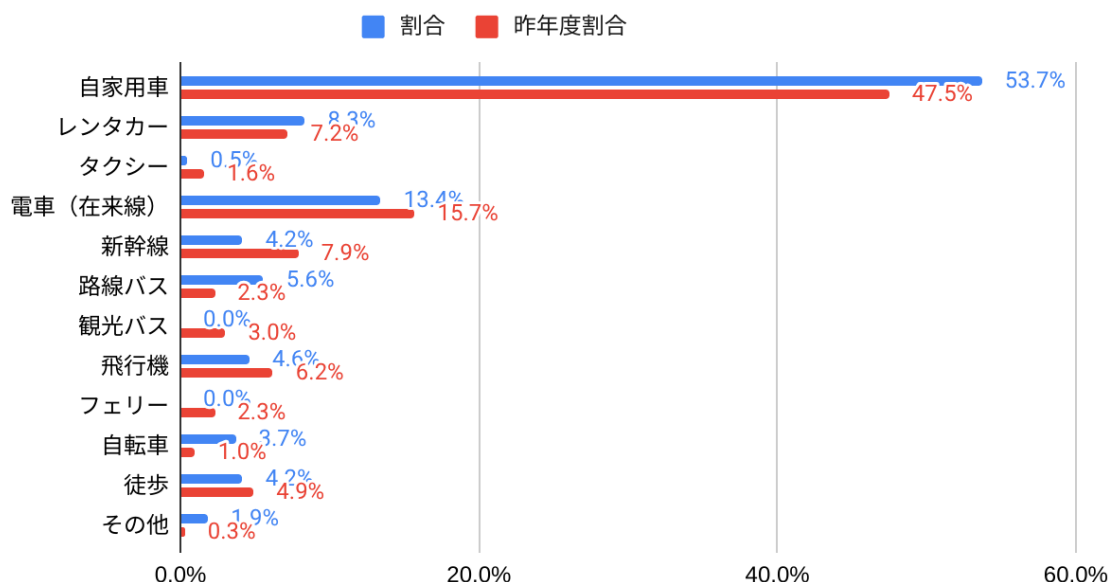
●交通手段 ※複数回答有

	人数	割合	昨年度割合 (参考)
自家用車	116	53.7%	47.5%
レンタカー	18	8.3%	7.2%
タクシー	1	0.5%	1.6%
電車(在来線)	29	13.4%	15.7%
新幹線	9	4.2%	7.9%
路線バス	12	5.6%	2.3%
観光バス	0	0.0%	3.0%
飛行機	10	4.6%	6.2%
フェリー	0	0.0%	2.3%
自転車	8	3.7%	1.0%
徒歩	9	4.2%	4.90%

その他	4	1.9%	0.30%
合計	216		

※一番割合が高い数値 赤色

交通手段



昨年度に引き続き、自家用車の割合が増加傾向(昨年度比6.2%増)にある。

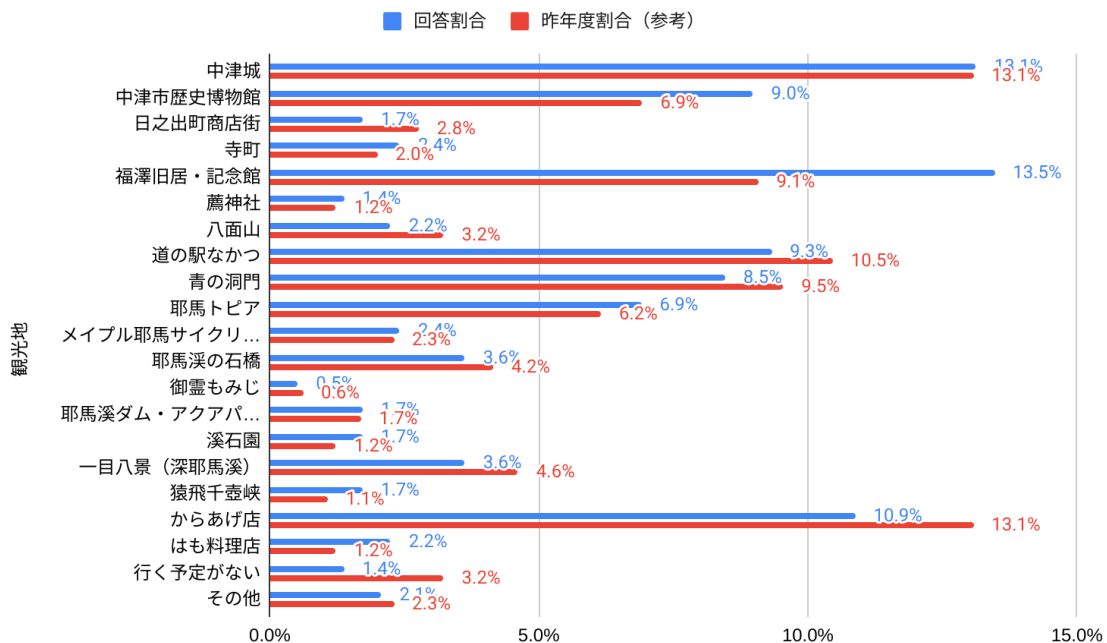
またレンタカーの割合も微増(昨年度比1.1%増)となり、自家用車とレンタカーで全体の62%(昨年度比8%増)を占めている。

一方で、電車(在来線)、新幹線、飛行機、フェリーの利用はいずれも微減傾向にある。

九州・沖縄地方からの来訪者が伸びていることから、九州近郊エリアから、自家用車やレンタカーを利用して来訪している割合が増え、一方で、電車(在来線)、新幹線、飛行機、フェリー等、遠方からの来訪者が使用されると思われる公共交通機関は微減したと考えられる。

問9. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます(した)か。(複数回答可)

- | | | |
|-----------------------------------|--|----------------------------------|
| ☐ 中津城 | ☐ 中津市歴史博物館 | ☐ 日之出町商店街 |
| ☐ 寺町 | ☐ 福澤旧居・記念館 | ☐ 薦神社 |
| ☐ 八面山 | ☐ 道の駅なかつ | ☐ 青の洞門 |
| ☐ 耶馬トピア | ☐ メイプル耶馬サイクリングロード | ☐ 耶馬溪の石橋 |
| ☐ 御霊もみじ | ☐ 耶馬溪ダム・アクアパーク | ☐ 溪石園 |
| ☐ 一目八景 | ☐ 猿飛千壺峡 | ☐ からあげ店 |
| ☐ 鰐(はも)料理店 | ☐ その他 | |



前年と比べ、中津市歴史博物館や福澤旧居・記念館の割合が増加している。

旅の決定要因で、歴史・文化を目的とした来訪者の割合が増加傾向にあることと関連して、不滅の福澤プロジェクトによる観光PR、令和6年7月に新紙幣発行による福澤諭吉の肖像交代をきっかけに、これらの施設の来訪者が増えたと考えられる。

問10. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。（自由記述）

料理名（ ） 店名（ ）

●グルメ

項目	人数	割合	【参考】 昨年度割合
からあげ	67	46.5%	38.5%
はも	12	8.3%	5.6%
そば	8	5.6%	4.8%
スイーツ	4	2.8%	4.3%
カレー	3	2.1%	3.0%
未記入	50	34.7%	25.1%
合計	144		

自由記述欄のため、回答が多かったもののみ抜粋している。からあげの割合がもっとも多い。今年度は、城下町エリアの来訪者が多かったこともあり、はもの割合も増えた（昨年度比2.7%増）。

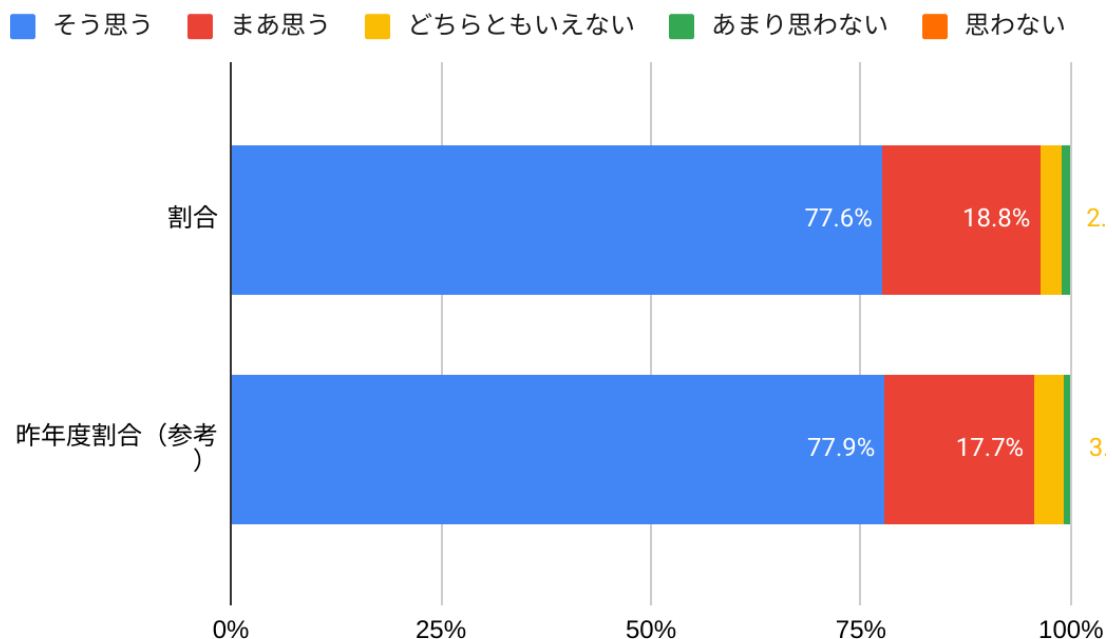
問11. 再び、中津に旅行に来たいと思いますか？

☐ そう思う ☐ まあ思う ☐ どちらともいえない ☐ あまり思わない ☐ 思わない

●中津への再来訪 回答率:100%

回答	人数	割合	昨年度割合 (参考)
そう思う	128	77.6%	77.9%
まあ思う	31	18.8%	17.7%
どちらともいえない	4	2.4%	3.5%
あまり思わない	2	1.2%	0.9%
思わない	0	0.0%	0.0%
合計	165	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色



旅の満足度を図る目的で、再来訪の意向を確認している。中津へ再び来たいと思う割合は、昨年度の比率とほぼ変わらず。

そう思う77.6%、まあ思う18.8%の合計96.4%となり、例年に引き続き95%を超えている。

問12. 中津市内の観光で困ったことはありますか。(自由記述)
 集計結果は下記の通り

回答	人数	具体例(一例)
未記入	84	—
特になし	27	—
アクセス・交通 について	23	公共の移動手段が少ない、駐車場が少ない、道が狭い
環境について	8	キャッシュレス決済ができる場所が少ない、お土産屋が少ない、
飲食店について	2	夜ご飯を食べられるお店が少ない、ランチの開店時間が早いほうがいい
駅について	3	駅の観光案内所が寂しい、トイレが古い
観光施設について	9	〇〇施設のトイレが汚い、中津市歴史博物館の常設展示が入れ替えで見れなくて残念、道の駅にRVパークを併設してほしい
宿泊施設について	1	耶馬溪の宿泊施設が少ない
その他	2	欲しいものが売り切れていた、おすすめ観光コースがあるとよい
ポジティブな意見	6	観光地の案内の人が丁寧だった、道も走りやすくドライブできた、温泉が大好きで中津はよく訪れる
合計	165	

4 本調査総括

(1) 調査方法の影響について

令和5年度アンケートから、調査箇所を新規に①中津耶馬溪観光協会②やすらぎの郷やまくにの2地点を追加した。特に、②については、全体の回答者数の12%を占め、旧下毛エリアではトップの回答者数となった。

調査結果には個別に掲載していないが、やすらぎの郷やまくにでの回答者の特徴としては、リピーター率、家族旅行利用率が多い。

そのため、多少なりとも影響を受けたと考えられる設問が、問1「旅行回数」及び問2「旅形態」の家族旅行の割合の増加、と考えられる。

(2) 調査から見てくる傾向についてのまとめ

- ・九州・沖縄地方からの来訪者が全体の7割を占めた。
- ・昨年度に引き続き、50代以上のシニア層が増加傾向にある。
- ・リピーターの割合が多い。
- ・家族旅行の割合が合計で7割近く、直近3年での増加傾向が強い。
- ・昨年度と同様に、1週間以内に計画する割合が最も多い。
- ・インターネット媒体からの情報取得が多い。ただし、年齢が上がるとその割合も反比例する。
- ・旅の目的として、グルメの割合が一番多い。また歴史・文化を目的とした来訪者の割合が増加傾向にある。
- ・市内宿泊者の割合は増加し、滞在時間も長時間化の傾向がある。
- ・全体(宿泊+日帰り)の予算額については、増加した。ただし、ホテル等の宿泊費をはじめとした物価が上昇していることも一因と考えられる。
- ・昨自家用車・レンタカーの割合が増加傾向にあり、全体の6割以上を占めている。一方で公共交通手段が少なくて困ったという声もある。
- ・前年と比べ、中津市歴史博物館や福澤旧居・記念館の割合が増加している。
- ・心に残ったグルメは、からあげの割合がもっとも多い。今年度は、城下町エリアの来訪者が多かったこともあり、はもの割合も増えた。
- ・中津市の観光に関する満足度自体は高い。

(3) 今後の課題

① 調査方法について

調査方法自体の課題として、昨年度の回答者数は、231名であったのに対し、今年度は165名であった。調査結果の信用度を高めるためには、より広く多くの回答者数を集めることが不可欠なので、今後も周知活動の拡大と、調査場所の精査を随時行っていく。

② 周知手段について

リピーター率が高く、旅の満足度自体は高い反面、新規の旅行者が少ない。中津市に訪れたことがない人に対しても、旅行先の選択肢の一つに入れてもらえるべく周知を図る必要がある。

また、若年層に訴求すべく、インターネット、SNSを利用した広告媒体等を積極的に使用する必要がある。

③ 来訪者への取り組みについて

家族旅行が多い反面、出張者の割合が少ない。ビジネスで来訪した人に対し、限られた時間で観光をしてもらう工夫を考える必要がある。

また、自動車以外の交通手段に不便性がある。バス自体の運行本数を増やすことは難しいが、乗り換え案内、ルート、時刻表などが分かりやすい案内やパンフレットを作成するなどの取り組みを行う必要がある。

④ その他

一万円札の肖像交代をきっかけに城下町エリアの来訪者が増えたが、これを一時的な増

加にするのではなく、継続できるよう取り組む必要がある。
滞在時間の長期化傾向があり、市内宿泊者数も増えたが、要因が不透明なので、引き続き調査分析を行う。

以上